

おはようございます。校長の倉崎です。

東京オリンピックからパラリンピックにバトンが渡ろうとしていた8月17日、南高の2学期が始まりました。

始業式の挨拶で引用したのが、朱雀祭のスローガン「Bon voyage～時代の波を乗り越えよう」でした。折しも、コロナ第五波という荒波まっただ中の船出であり、部活動をはじめ、学校生活には厳しい制限がかけられました。その状況にあっても、皆さんが「この条件下でできること」を創意工夫し、チームの力を発揮して3日間の朱雀祭を見事やり遂げたことを、誇りに思います。

この2学期を振り返ると、新たな挑戦と慎重な対応が入りまじる、とても忙しい日々だったと思います。1, 2年生はRAP（未来創造リサーチ&アクション・プログラム）の活動が本格的に始まりました。2年研修旅行を中止せざるを得なかったのは誠に残念でしたが、代替プログラムや昨日の理数科発表会に至るまで、多くの体験や魅力的な人たちとの出会いがあったのではないのでしょうか。3年生はほぼ毎週末の模擬試験に加え、推薦型の入試も始まり、遅くまで個別指導を受ける姿がありました。

そんな中で迎えた11月の創立60周年記念式典。秋晴れのもと、生徒会・文化部を中心とした南高ならではの演出で祝うことができました。また、直接お顔は見えないけれど、多くの卒業生や旧職員の方々から寄付やメッセージを頂戴しました。「後輩たちに少しでも快適な環境を」との温かいお志を、私たちは大切に受けとめ引き継いでいかねばならないと、思いを新たにしました。

私自身、校内外たくさんの人に励まされ助けられた2学期でした。「ありがとう」と伝えたい相手がたくさんいるということは、本当に幸せなことだと感じています。

1年の締めくくりにあたって、今日は、私が「ありがとう」と言いたい一人の、この言葉を紹介します。

おちこむことも含めていい1年でした

誰の言葉がわかりますか。私の教え子でも友達でもありませんが、1年を通じて活力になってくれたこの人（←大リーグの大谷翔平選手）です。

華々しい大リーグデビューの後、肘や膝の故障で不本意なシーズンを経ての2021年は、投打二刀流に挑む大谷選手にとって背水の陣だったに違いありません。逆境をはねのける大活躍とともに、私が楽しいなと思ったのは、豪快な三振の後、ベンチでひたむきにビデオを見て研究する姿と、前向きなその発言でした。たとえば、

「毎日やっていれば、良かった悪かったは必ずある。ここが悪かったというのが出てくるのはとても幸せなこと。」「自分には足りないところがたくさんある。まだまだうまくなれると思う」シンプルですが、心に響く言葉だと思います。勝手に言い換えると、

「自分の欠点やミスが見つかったら、そこを補強することでまた一步前進できる」「わかること、できるが増えるのは楽しいことだから、努力を続ける。」

年齢や場面を問わず、私たちにも通じることではないでしょうか。

まもなく2022年がやってきます。この冬休み、皆さんの中の、伸ばせる無数の芽を、ぜひ探してください。

結びに、病を克服し東京オリンピックの舞台に立った競泳・池江璃花子さんの言葉を贈ります。

未来は自分で変えていくものだと思っている

それでは皆さん、1月7日、元気に再会できるのを楽しみにしています。